

## 第3回山ノ内町立小学校統合準備委員会 次第

日時 令和5年2月10日(金)

午後6時00分～

場所 文化センター ホール

### 1 開 会

### 2 委員長あいさつ

### 3 報告事項

- ・第2回委員会ワークショップについて

資料1

### 4 会議事項

- ・山ノ内町立統合小学校整備計画(素案)について

資料2

### 5 グループ別ワークショップ

#### (1) ワークショップ

テーマ「重点となる教育・小中連携の考え方について」

#### (2) グループからの発表

#### (3) 全体のまとめ(原委員長)

### 6 その他

- ・次回日程

### 7 閉 会

統合準備委員名簿及びグループ分け表

職名	所属等	氏名	グループ	区分
委員長	元小学校長	原 隆文	全体	(5)学識経験者
副委員長	町子ども会育成会連絡協議会長	金井 哲也	欠	(1)小学校保護者代表
委員	東小学校PTA会長	田中 浩幸	A	(1)小学校保護者代表
委員	南小学校PTA会長	宮崎 秋之	B	(1)小学校保護者代表
委員	西小学校PTA会長	畔上 元弘	C	(1)小学校保護者代表
委員	山ノ内中学校PTA会長	山本 佳史	C	(1)中学校保護者代表
委員	志賀高原保育園保護者会長	西沢 寛樹	欠	(2)保育園保護者代表
委員	かえで保育園保護者会長	児玉 友香	欠	(2)保育園保護者代表
委員	ほなみ保育園保護者会長	山本 典敬	C	(2)保育園保護者代表
委員	よませ保育園保護者会長	関 知里	B	(2)保育園保護者代表
委員	すがかわ保育園保護者会長	下田 愛実	欠	(2)保育園保護者代表
委員	東小学校長	湯本 文洋	B	(3)小学校教職員
委員	南小学校長	原 幸子	A	(3)小学校教職員
委員	西小学校長	齋藤 義和	C	(3)小学校教職員
委員	山ノ内中学校長	山口 近	B	(3)中学校教職員
委員	区長会会長 (湯田中区長)	宮崎 幸雄	A	(4)地域住民代表
委員	区長会副会長 (戸狩区長)	北原 公治	B	(4)地域住民代表
委員	区長会副会長 (前坂区長)	湯本 憲市	C	(4)地域住民代表
委員	区長会副会長 (須賀川区長)	保坂 克芳	欠	(4)地域住民代表
委員	コミュニティスクール コーディネーター	小河原 康貴	A	(4)地域住民代表
委員	主任児童委員	佐藤 重子	A	(5)学識経験者

○教育委員	○教育委員会事務局
教育長 柴草 隆	教育次長 小林 元広
職務代理 岩本 繁樹	学校教育係長 森川 昌俊
委員 堀米 ひろみ	教育指導主事 小林 妙子
委員 黒岩 博之	学校教育係 畔上 俊樹
委員 山本 均	学校教育係 田中 稜平

## 第2回統合準備委員会 グループ別ワークショップでのご意見

テーマ① どのような子どもたちを育てたいか（目指す子どもの姿）

R5.1.25(水)

基本構想（案）	主体性 課題をみつけれられる子	
<p>(1) 主体的に学び、学ぶ楽しさを 実感できる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな自然や人から学ぶ体験活動を重視</li> <li>自分で考え、自分で判断し、行動できる力の育成</li> <li>さまざまな人とともに学ぶ楽しさを味わえる学習活動</li> </ul>	課題を見つけ解決していくことができる子	課題解決 自ら 主体性 学ぶ楽しさ
	自ら課題や問いを持ち、それを自ら解決しようと主体的に行動する子ども	
	問題を自分でみつけていく子（受け身ではなく、何か自分でつかまえていく）	
	自分の考えをまとめ、行動できる、主体性のある子ども	
	自分で考える人 疑問を持てる子（なんで？）（ほんとうに？）	
	自ら楽しむことを考えられる子 自分の好きなことをひとつ探せる	
	自ら学ぶ楽しさがわかる子	
	動いて考える子 五感を通して、自分で情報を	
	友だちとかかわりながら学べる子	
	地域自慢 ふるさと・自然を大切にする子	
<p>(2) 広い視野を持ち、行動する子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域を学ぶ、地域から学ぶ「ふるさと教育」「環境教育」</li> <li>ユネスコスクールの登録 持続可能な社会の担い手に</li> <li>世界を見つめる視野と考え方を学び、身近から行動できる力の育成</li> </ul>	地域文化の体験により、地域をよく知り、山ノ内町を大切に思える心を持つ子	地域自慢 山ノ内町の歴史、文化、自然 体験活動 感受性豊かな 町の未来
	山ノ内町の歴史、文化、自然観光に誇りや愛着を持ち、それを自分以外にもつなげられる子	
	豊かな自然を愛し、自然を活かした課外授業や体験活動から学ぶ感受性豊かな子	
	身近にある自然を思い切り楽しむ子	
	ふるさと山ノ内の良さをわかり、山ノ内町の未来にかかわっていける子ども	
	郷土愛のある子ども	
	グローバルな社会に対応できる子	
	外国の人と話ができる子	

テーマ① どのような子どもたちを育てたいか（目指す子どもの姿）

基本構想（案）	多様性を認め合う、人とのつながり（交流）		
<p>(3) かかわりを深め、豊かな心を持つ子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な他者とつながり、認めあう学習活動</li> <li>自分を大切にし、他者を大切にできる心の育成</li> </ul>	多様性を認め、コミュニケーションがとれる子	多様性 認め合い 支え合い コミュニケーション	
	へだたりを持たない子 個性・違いを認め合って受け入れ、支え合っている子ども		
	コミュニケーション力のある、社会性を育む		
	地域、観光客との交流 国際的な交流		
	(学校、地域) みんなに挨拶ができる子		
	つながりを大切にする子		
	共に助け合い、みんなで一つの事を達成できるような教育を		
	違いを否定しない やさしい子		
	友だちとかかわりながら学べる子		
	豊かな心、表現できる子		
	個性豊かな力		
	良い事、悪い事、やってもいい事、いけない事をちゃんと理解できる子ども		
	友達を思いやり、大切にできる豊かな心を育む		
	自分を大切にしながら、相手を思いやる、大切にできる子		
自分の考えを持ち、自分から思いを表現できる子			
外国の人と話ができる子			
	体験活動		
<p>(4) たくましく、夢に向かって進んでいく子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の良さを知り、それを活かせる場で自立する力の育成</li> <li>心身の健やかな成長のためのスポーツや体験活動</li> </ul>	たくましい子（失敗を糧にできるように）	たくましい	
	思い切り遊べる子 はまりこめる子		

第2回統合準備委員会 グループ別ワークショップでのご意見

テーマ② どのような学校にしたいか（目指す学校像）

R5.1.25(水)

基本構想（案）	居場所がある学校 行きたい学校 楽しい学校	
(1) 一人一人に居場所がある安心・安心・安全な学校	楽しく過ごす場所 学校に行くのが毎日楽しいと思える学校	楽しい 居場所 行きたい
	先生と児童が語り合える学校	
	ひとりひとりの子どもの良さ、可能性を広げられる学校	
	一人一人の個性を尊重した学校	
	ひとりひとりに居場所がある学校	
	学校に行くのを毎日楽しみにできる 毎日行きたいと思える学校（ひとつでもいい）	
	安心・安全な学校	
	宿題がない学校	
	幅広い交流が生まれる学校 開かれた学校	
(2) 豊かな学習・体験活動・交流が生まれる学校	やりたいことができる（チャレンジ）やるべきことをやる（責任）充実感・達成感	充実感 達成感 小中一貫  交流
	クラスや学年を超えた縦割りの交流が多い学校	
	小中一貫教育 目標を立て、9年間のスケールメリットを出す	
	ICT教育の推進	
	個人の学び、グループの学びに集中できる学校	
	宿題がない学校	
	地域の方や観光客の方と交流できる学校	
	町内の様々な地区、他の市町村との交流ができる学校	
	多くの方が出入りできる、交流できる学校	

テーマ② どのような学校にしたいか（目指す学校像）

基本構想（案）	地域の愛着心を育てる学校 地域の特色を生かして学ぶ学校	
(3) 地域とともにある学校	コミュニティスクール	山ノ内町の 特色
	地域とのかかわりを大切にできる空間と創造	
	地域の愛着心を育てる学校 東西南北各地域の特徴や歴史などを学ぶ機会が多くあること	
	山ノ内町の発達・維持につながる学校	
	山ノ内町の人・もの・こととつないだ教育	
	東西南北 それぞれの色を感じあえる学校	
	豊かな自然体験ができる学校 春夏秋冬多様に楽しめる学校	
	山ノ内町の自然や歴史、文化を生かした学びのある学校	
	特色（ESD、ふるさと、自然、志賀高原など）を前面に出して学習する学校	
	地域の文化や歴史を体験して、発信できる学校	

## <資料>義務教育学校・小中一貫校について

### 義務教育学校

- 学校教育法改正により  
2016年に新設された学校教育制度
- 一人の校長、一つの教職員組織  
(副校長 小中免許所有の教員)
  - 9年間の学校教育目標を設定
  - 系統性を確保した教育課程

(信濃小中、美麻小中、根羽学園、檜川小中)

### 小中一貫校

- 独立した小学校・中学校が一貫した教育を行う形態
- それぞれの学校に校長、教職員組織
  - ※施設一体型…同一の校舎内で
  - ※施設隣接型…隣接する小学校、中学校で一貫した教育
  - ※施設分離型…離れた場所にある小学校、中学校で一貫した教育を行う

### メリット

- 柔軟な学年段階の区切りを設定
  - ・4-3-2 ・5-4 など
- 交流の促進
  - ・合同行事 ・児童会生徒会活動の協働
  - ・学習成果の発表会
  - ・部活動への段階的な参加 など
- 異年齢集団での育ち
  - ・中学生へのあこがれ、目標
  - ・下級生への思いやり
  - ・社会性の育成
- 教育課程上の特例実施
  - ・新教科等の創設
  - ・学年間での指導内容の入れ替え、前倒し
- 中学入学への不安軽減  
(中1ギャップ解消)
  - ・小学校での教科担任制 ・乗り入れ指導
  - ・多くの教職員による指導

- 目標や重点の共有による一貫指導
  - ・学校目標、特色ある教育活動の統一
  - ・一貫した指導方法に基づいた指導
- 専門性を活かした指導
  - ・部分教科担任制 ・小中乗り入れ授業
- 研修や研究の充実
  - ・合同研究や合同研修
  - ・9年間を見通した指導の充実
  - ・教材研究の深まりや指導技術の向上 など
- 児童生徒理解
  - ・児童生徒の学習状況や特性などの共有による継続的指導・支援

### デメリット

- 人間関係の固定化
  - ・トラブルの影響が長引く恐れ
  - ・新たな人間関係を築くストレス耐性の低下
- リーダーシップ、自主性を養う機会の減少
  - ・児童会、行事などで5・6年生の活躍機会が減少
  - ・小学校の卒業式(区切り)なし
- 共有施設・スペース利用の制限
  - ・特別教室、校庭等の利用頻度が減少する可能性あり
- 転出入児童生徒への個別対応必要
  - ・指導内容の特例に合わせる対応

- 9年間の教育課程編成に時間が必要
  - ・小学校、中学校それぞれの教育課程理解
  - ・目標や重点の設定
  - ・特色ある教育課程についての理解
- 学校施設利用のスケジュール調整が困難
  - ・運動会前の練習(校庭使用の特別時間割)
  - ・共有教室の使用時間割 など
- 小中学校の免許所有が原則  
(義務教育学校)
- 校長の職務過重
- 教職員の負担感